

## 観測データファイルおよび予測値ファイルの命名則について

近藤哲朗

autoobs を使用しての観測時に生成されるデータファイルの命名則と、それらのデータの相関処理時に使用する予測値ファイルの命名則について説明する。apri\_calc で予測値計算を行う際には、観測時に使用した命名則を使用するが、タイプ 3 を指定した際に、予測値ファイル名に周波数情報が反映されていなかったが、2007.04.04 以降のリリースでは周波数情報が予測値ファイル名に反映されるように定義を変更した。

## 1. 観測データファイル命名則

タイプ 1 または -1:

```
XDDNNNN.[#ch.]dat
ここで
X    -- 局ID (1文字)
DDD  -- 一番目のスキヤンの通日
NNNN -- 観測番号 (4桁)
#ch  -- チャンネル数 (1 または 4) (タイプが負の場合のみ)
```

タイプ 2 または -2: K5/VSSP 固有タイプ

```
sidDDDHMMSSG.[#ch.]dat
ここで
sid  -- 局ID (1文字か2文字)
DDD  -- スキャン開始通日 (3桁)
HH   -- スキャン開始時 (2桁)
MM   -- スキャン開始分 (2桁)
SS   -- スキャン開始秒 (2桁)
G    -- 周波数グループID (a|b|c|d) または null
#ch  -- チャンネル数 (1 または 4) (タイプが負の場合のみ)
```

タイプ 3: e-VLBI ファイル命名則準拠

```
expid_sidP_scanid_YYYYDDDHMMSS.k5
ここで
expid  -- 実験コード
sid    -- 局ID (小文字2文字) 大文字の場合は小文字に変換
P      -- ターミナル(PC)ID (1|2|3|4) または null。1,2,3,4 は
        周波数グループの a,b,c,d に相当する
scanid -- スキャンID
        VEX ファイル使用時はスキャンIDそのまま
        SKED 使用時は ddd-hhmm 同じ分の中に複数の観測がある
        場合は2つ目以降に時間順に最後に a,b,c,d,... をつけていく
```

YYYYDDHMMSS -- 観測開始時刻  
.k5 -- K5 データ識別子

タイプ 4: 未使用

タイプ 5:

expid\_scan#.stcode.k5a(-d)  
ここで  
expid -- 実験コード  
scan# -- スキャン番号  
stcode -- 局コード  
k5 -- 固定値  
a-d -- 周波数グループ

## 2. 予測値ファイル命名則

タイプ 1:

apeDDDDNNNXYG.txt  
ここで  
'ape' -- 固定文字  
DDD -- 通日 (2日またがる場合も最初の通日)  
NNNN -- 観測番号 (4桁)  
XY -- 基線 I D (2文字または4文字)(スケジュールファイル中の I D)  
G -- P Cの対応を示す1文字(a,b,c,d)  
周波数グループ 1-4 に対応

タイプ 2:

apeDDDDHMMSSXYG.txt  
ここで  
'ape' -- 固定文字  
DDD -- 通日 (スキャン開始時)  
HH -- 時 ( " )  
MM -- 分 ( " )  
SS -- 秒 ( " )  
XY -- 基線 I D (2文字または4文字)(スケジュールファイル中の I D)  
G -- P Cの対応を示す1文字(a,b,c,d)  
周波数グループ 1-4 に対応

タイプ 3:

expid\_sid1sid2\_P\_scanid\_YYYYDDHMMSS.txt  
ここで  
'ape' -- 固定文字  
expid -- 実験コード  
sid1 -- X局 I D (小文字2文字) 大文字の場合は小文字に変換  
sid2 -- Y局 I D (小文字2文字) 大文字の場合は小文字に変換

P -- ターミナル(PC)ID (1|2|3|4) または null。1,2,3,4 は  
周波数グループの a,b,c,d に相当する  
scanid -- スキャン I D  
VEX ファイル使用時はスキャン I D そのまま  
SKED 使用時は ddd-hhmm 同じ分の中に複数の観測が  
ある場合は 2 つ目以降に時間順に最後に a,b,c,d,...  
をつけていく  
YYYYDDHHMMSS -- 観測開始時刻

タイプ 4: 未使用

タイプ 5: タイプ 2 命名則に従った予測値ファイル